

営農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231

世羅営農センター ☎0847-25-5029

尾道北営農センター ☎0848-29-9611

浦崎支店 ☎0848-73-3311

向島営農センター ☎0848-44-2106

御調支店 ☎0848-76-2242

因島営農センター ☎0845-25-6161

世羅西支店 ☎0847-37-7100

水稲

【水管理】

つきあかりやコシヒカリ・あきさかりの極早生・早生品種については7月下旬から8月上旬にかけて、中生以降の品種については8月上旬から下旬にかけて出穂を迎えます。

出穂の前段階にあたる幼穂形成期(出穂24日前)～出穂後の開花期は、最も水が必要な時期ですのでポイントをおさえた適切な管理をしましょう。

・出穂後5～15日は最も高温障害に対す

る感受性が高くなります。出穂前後20日、気温が高い様であればかけ流しを行いましょう。

・その後は、間断かんがいで適度に酸素を供給し、根の力を落とさないように心がけましょう。

・落水は出穂後30日頃(出穂日からの積算温度1,100℃を目安としますが、落水後、高温・乾燥が続く場合は走り水等を行いましょう。早期落水による品質低下には十分注意してください。

【病害虫】

◆紋枯病

高温で発生しやすく、湿度が高くなると病気が広がります(侵入最適温度30～32℃、湿度96%)。特に窒素過多の場合は被害が大きくなります。

紋枯病の菌は土の中で越冬しますので、前年に発生した圃場では本年度も発生する確率が高いため注意が必要です。

特に注意が必要な圃場は

- ・施肥が多く大株になった圃場
- ・一株の植付け本数が多いイネ
- ・密植した圃場

です。出穂前の基幹防除だけではなく定期的に圃場を見てまわり、株の中や株元に発生が確認されたら「バリダシン粉剤」等で随時防除を行ってください。

◆いもち病

夏季に22～26℃程度の低温気味で長

雨・日照不足の環境(冷夏長雨)で発生しやすくなります。紋枯病と同様に、窒素過多の場合は被害が大きくなります。

葉いもちに対する薬剤防除は発生初期ほど効果が高くなります。

穂いもちの発生は、直接収量に影響を及ぼすので、予防散布として、出穂前後の基幹防除を徹底してください。



▲葉いもち病斑

◆カメムシ類

令和7年度においても、県内全域に「斑点米カメムシ類」に関する注意報が発表されました。乳熟期の吸汁の害が多く斑点米として農産物検査で問題となる害虫です。適正な管理を心がけましょう。

また、稲穂のみならず穂軸や葉を加害するカメムシも確認されており、定期的な圃場確認と定期防除・周辺環境の整備を徹底してください。

対策としては

- ・圃場周辺の適期草刈り
- ・出穂期～乳熟期にかけての防除

が基本です。出穂期に使用する「スターフル粒剤」は粉剤より長期間効果がありません。

畦畔等の草刈り時期は、水稲の出穂開花時期の少なくとも2週間前までに終了するようにしましょう。穂ばらみ期以降の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込むことになるので行わないようにしましょう。



▲斑点米

◆ウンカ類

トビイロウンカは偏西風によって日本に飛来し、坪枯れによる大きな被害を及ぼします。

年によって飛来数やタイミングが異なるため早期予測が困難であることから、県が発表する最新の予測情報を常に確認する必要があります。

トビイロウンカ飛来に関する情報が発表され次第、各営農センター窓口にご注意喚起の案内を掲示いたしますので、ご確認ください。

その他病害虫に対する農業・時期等は「稲作暦」を参考にしてください。また、発生する病害虫はその年の天候に大きく左右されるので、病害虫に対する情報には十分注意してください。

柑橘

7月から8月はサビダニが多発しやすい時期です。サビダニは被害が見え始めるからの薬剤散布では手遅れになる場合が多いため、発生が見られない場合も、予防的に薬剤を散布しましょう。

【中晩柑類の仕上げ摘果】

傷果や小玉果を中心に適正葉果比まで摘果します。仕上げ摘果が徹底出来ない場合、収穫作業や家庭選別作業が大変になるので注意しましょう。

仕上げ摘果時の留意事項

- ① 適正葉果比(表1)
- ② 肥大基準(表2)

表1：摘果基準

品種	残す果実	落とす果実	その他 落とす果実	最終葉果比
ネーブル	5～6枚の総状 有葉果の2番果	傷果、 小玉果、 内成り、 裾成り	直花果、 扁平果、 へそ大果	80～100
ハ 朔	5～8枚の単性 有葉果		直花果、 腰高果	80～100
デコボン	5枚以上の単性 有葉果		へそ大果、 扁平果、 遅れ花	100
は る み			極端な腰高	80
清 見			天成り	80～100
は る か			天成り	80～100

表2：7月30日時点で収穫時にL以上になる果実横径

品種	横径	備考
ハ 朔	48mm	
甘 夏	50mm	
ネーブル	40mm	
デコボン	48mm	(2L)
しらぬひ	37mm	
は る か	37mm	
レ モ ン	34mm	(年内M)

③ 病害虫被害の有無

④ しらぬひの扁平・変形果

【中晩柑類の灌水・保水対策】

中晩柑類は大玉生産が高単価のカギとなります。果実肥大促進目的で梅雨明け後は、土壌を乾かさないうちに早めに灌水しましょう。梅雨明け後、10日以上降雨が無い場合、10a当たり20～30mmの灌水をしましょう。また、灌水施設のない園地では、ホース灌水の場合一樹40ℓ以上、かん注機の場合一樹10ℓ以上計20ℓ以上実施しましょう。また、保水対策もあわせて実施しましょう。

過乾燥状態で一度に多量の灌水を実施すると裂果が発生します。定期的な灌水が重要です。

◆ しらぬひ

しらぬひの果皮障害は夏秋季の乾燥が要因の一つとなります。

しらぬひの減酸は8月～11月までほぼ一定量しか減酸しません。クエン酸含量が最も高くなる8月の酸を下げることに

が、食味の良い果実生産につながります。



▲しらぬひは干ばつの影響で収穫後ヤケが出やすくなります

◆ はるみ

はるみは夏秋季の乾燥により酸高になり食味が悪くなります。また、夏場の乾燥により次年度の着花が著しく減少します。灌水を徹底しましょう。

◆ ハ朔

乾燥により、ホウ素の吸収が抑制されや二果が発生します。灌水を徹底しましょう。

【みかんの品質向上】

糖度の高いみかんを生産するには満開後60～100日の乾燥が重要です。中晩柑類と同じ水管理をすると味の悪いみかんが出来ますので注意してください。また、雨の多い場合は糖度上昇を目的に次の対策を実施してください。

◆ フィガロン散布

満開後60～70日、80～90日にフィガロン乳剤3,000倍とマグミーフE600倍を混用散布してください。干ばつ時は散布しないでください。

◆ タイベックマルチの被覆

梅雨明け前に被覆することにより、食味の良い果実生産が可能となります。全面被覆することにより効果が高まります。

【みかんの荒もぎ摘果】

摘果を遅らせると糖度の高いみかんが出来ますが、2Sでは収益になりにくいです。果実肥大を見ながら摘果の早晚を決めてください。

◆ 小玉傾向の樹

7月下旬から内生子裾生りを中心に荒もぎ摘果を開始してください。

◆ 肥大順調の樹

盆明けから摘果を開始してください。

【病害虫防除】

◆ サビダニ

サビダニの被害を防止するには7月・8月・9月の薬剤散布が特に重要となります。防除暦に従い薬剤を丁寧に散布しましょう。園内の果実が生っていない樹にもサビダニは寄生していますので防除が必要です。

サビダニの初期被害果は茶色粉がふいたように見えます。



▲サビダニ初期被害果

◆ ミカンハダニ

発生密度が低い内に丁寧に薬剤を散布

しましょう。

◆黒点病

ジマンダイセン水和剤の散布間隔は累積降雨250mmもしくは散布後30日です。遅れないように散布しましょう。アピオンEを混用すると薬剤の残効が高まります。(8月は薬害事例があるので使用しないでください)

◆ヤノネカイガラムシ

8月中下旬が2回目の防除適期となります。散布ムラのないよう薬剤を散布しましょう。

◆サンホーゼカイガラムシ

ヤノネカイガラムシの防除より10〜15日早く薬剤を散布する必要があります。



▲サンホーゼカイガラムシによる被害

【日焼け対策】

陽光面に紙のガムテープを貼るか白色サンテなどを利用し日焼け防止を図りましょう。日焼け対策を省力化するためにホワイートコートの散布も有効です。(選果機の水洗ラインを通らない品種は汚れがとれないので使用しないでください)



▲日焼け果



▲ホワイートコート散布果実

【除草】

雑草と養水分の競合を防ぐために実施します。除草剤の特徴をよく理解して使用しましょう。グリホサート系除草剤の連用はツクフサやスギナの占有率が高くなるので注意しましょう。

梅雨明け頃にシンバー水和剤とバスタを混用散布すると長期間、雑草の発生を抑制できます。詳しい使用方法是担当技師へお問合せください。

落葉果樹

ぶどう

【露地栽培デラウェア】

◆収穫

いよいよ収穫期です。収穫は果実温度の低い早朝に行ってください。

出荷される方は、酸抜けに注意して適熟果の収穫を心がけ、商品として責任の持てる果実を出荷しましょう。

◆水分管理

着色期から収穫期にかけては、やや乾燥気味に管理を行ってください。

◆裂果対策

裂果対策は万全ですか？
排水溝や樹冠下のマルチング等を行ってください。

【露地栽培ピオーネ】

トンネルのビニールは温度が上がります。着色不良の原因になります。袋掛け後早めに除去して防除をしてください。着色が始まってからは、やや乾燥気味に管理を行ってください。

大粒系のぶどうではベト病に気を付けてください。発生が見られた場合は早めに防除してください。

もも

収穫が終了した樹は、果実生産に栄養を消耗させており弱っています。礼肥を施用し(硝酸入り化成肥料S604を20kg/10a)、灌水もしっかり行い、樹勢の回復を図りましょう。

次年度の貯蔵養分を蓄えるために、葉を樹にできるだけ長くつけておけるよう防除を徹底し、葉を大切にしましょう。

乾燥が続く場合は灌水を行いましょう。

◆注意する病害虫

シンクイムシ類、カイガラムシ類、さび病



▲褐さび病(葉)

なし

◆新梢管理

徒長枝は日当たりを考慮して込み合うようなら、誘引やねん枝を行ってください。樹勢が弱っている樹の夏季剪定は、樹の内側の込み合った部分を整理する程度にしてください。葉数が少なくなると光合成量が少なくなり、樹にとっては致命的なダメージとなります。

◆水分管理

なしは水分が多いほど大きくなります。乾燥させないように定期的にしつかり灌水を行ってください。

いちじく

◆新梢管理

枝が密生して樹冠内部が混みすぎていると、葉による傷果、日照不足による着色不良果が増えます。園内を見回り、枝が混みすぎている所は思い切って枝抜きを行いましょう。

◆灌水

いちじくは夏季の水管理によって、果実の肥大に大きく影響します。梅雨明け後は、高温乾燥が続ぎ、ヤケ熟果の原因にもなりますので、晴天が続くようであれば灌水を行いましょう。

◆収穫

いよいよ収穫が始まります。果実温度の低い早朝に収穫しましょう。収穫する際は、果実を傷つけないように丁寧に採りましょう。

かき

◆摘果

奇形果・変形果・病害虫被害果・小玉果を摘果してください。

◆水分管理

柿は乾燥に弱いので、乾燥させないように定期的に灌水を行い、果実肥大を図ってください。

家庭菜園

今年は平年に比べ、2日程早い梅雨入りとなりました。中国地方の梅雨明けの平年値は7月19日です。梅雨明け後は高温、乾燥に注意しましょう。

【梅雨明け後の野菜の管理】

◆敷きワラ・マルチ被覆

敷きワラとマルチは病害防除としてだけでなく、株元の乾燥を防ぐ効果もあり、乾きによる根張りの悪さを防ぎ、肥料の効き目も高めてくれます。

また、6～7月の梅雨と台風、9月の長雨の時期には土壌中の水分調整(マルチのみ)、土跳ね防止にもなります。

敷きワラの場合、梅雨時期は薄く、梅雨明け後は厚く敷くことがポイントになります。

乾燥しやすい傾斜地では溝にも敷きワラを行い、乾燥防止に努めましょう。



畝全体に敷きワラをする

【夏野菜の後期管理】

これからの管理を怠らず、良品質な野菜を収穫しましょう。

①果菜類の整枝・誘引を行い、下葉を取り除き過繁茂になっている部分の間引きをするなど風通しをよくしましょう。

②灌水は朝早く行い、可能であれば昼前に2回目を行いましょう。

③追肥については、少量を定期的(10日～2週間おき)に施用しましょう。

④常に野菜に目配りし害虫の発生初期には防除を行いましょう。

【ニンジンの種播き】

夏播きニンジンは、秋の適温条件(18～20℃)で育つため作りやすく、秋から冬にかけて長い期間収穫できるので、家庭菜園にぜひおすすめです。

ただ、種播きは7月下旬～8月上旬ごろが適期となるので、発芽と生育初期だけは難しい時期に当たります。

種子は一昼夜浸水した後、ガーゼで包み、2～3割程度が発芽したら播き時です。

播き溝は鍬幅くらいに、底面が平らになるよう丁寧に作り、乾いていたらジョウロで溝全面にたっぷり灌水してから種を播きます。

覆土は種子がやっと見えなくなるぐらい、ごく薄くかけます。

その後、数回間引きをし、最終的に本葉が6～8枚の頃には株間を12cm位に整えて下さい。

【灌水の重要性】

野菜は水が不足するといろいろな障害が起こります。

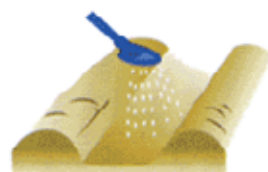
ニンジンの発芽不良もそうですが、土壌の乾燥によるカルシウム吸収不足が引き起こす「尻腐れ症」もその1種です。長く良品質な野菜作りのためにもしっかりと水管理を行いましょう。



▲ピーマンの尻腐れ症



種子間隔は2cm、覆土はごく薄く2～3mmぐらい



乾いていたら、播く前に溝全体にたっぷり灌水する